

2020年室内環境学会学術大会報告

大会長・実行委員長 野崎淳夫（東北文化学園大学大学院）

2020年室内環境学会学術大会は、2020年12月3日（木）、4日（金）の両日、郡山市中央公民館において開催されました。会期中は天候に恵まれ、皆様のご支援・協力により、成功裏に学術大会を終了することができました。ここに、講演者のもとより、大会関係者に深謝いたします。特に、スムーズな大会運営を実現された大会実行委員会の皆様に対し、心より御礼を申し上げます。

今般のコロナ禍は、学術大会開催に数々の困難を発生させましたが、確かな感染防止対策の実践やオンライン利用のハイブリット形式での開催形態が効を奏しました。発表件数は77件、現地参加者130名、オンライン参加者30名超となりました。また、計測器具メーカーなど11社により、魅力的な機器展示が行われました。

本大会のメインテーマは『環境汚染対策による健康環境の創造』であり、また『環境アレルギーと新型コロナウイルス感染症対策の最前線』と題したシンポジウムが開催されました。

本大会では、環境、物理/化学/生物、測定分析、建築、公衆衛生、医学などの知見を横断的に取り入れたため、Building-related illnessの発生の未然防止につながる室内環境関連の研究者と実務者の交流の場となりました。当初の目的が達成できたことは、学会員の皆様のご尽力によるものであります。ここに、真に感謝いたします。

次回、2021年室内環境学会学術大会は、2021年12月2日から3日にかけて、京都で開催される予定です。また、皆さまとお会いできることを楽しみにしております。



A会場の様子



B会場の様子



機器展示会場の様子



シンポジウムの様子